

再 評 価 調 査

整 理 番 号	2
担 当 部 課 名	土木部道路建設課

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名 称	一般国道 354 号 境岩井バイパス
(3)事業主体	茨城県	(4)箇 所 名	猿島郡境町猿山～坂東市生子
(5)採択年度	2001 年度（平成 13 年度）	(6)完成予定年度	2025 年度（令和 7 年度）
(7)事業目的	・一般国道 354 号は、群馬県高崎市を起点とし、本県の南西部から鹿行地域を横断する広域的な幹線道路である。 ・境町の中心市街地における交通混雑の緩和を図り、交通の円滑化を図るとともに、圏央道境古河 IC へのアクセス機能の向上を目的として、猿島郡境町猿山～坂東市生子までの約 6. 3 k m のバイパス整備を行うものである。		
(8)事業内容	・道路延長：6, 300m、計画幅員：25m、暫定 2 車線 ・用地買収：245, 000m2、家屋補償：27 棟 ・道路改良・舗装、橋梁（鵠戸川橋梁）		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再々々々評価（完成年度変更）	(2)当初完成予定	2015 年度（平成 27 年度）
(3)未着工・事業が長期間要している理由	土地所有者の相続手続きの発生等により、用地取得に期間を要したことにより、事業が長期化している。		
(4)前回指摘事項に対する対応状況（再々評価の場合）	委員会の意見	対 応 状 況	
	継続することが妥当である。	整備効果の早期発現を目指し、事業を進めた。	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	2024 年度（令和 6 年度） → 2025 年度（令和 7 年度） 1 年延長 【理由】工事の支障となる農業用パイプラインを移設するにあたり、地元調整に不測の日数を要したことにより、工事着手が遅れたため。
(2)事業内容の変更	【理由】
(3)事業費の変更	【理由】

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量 (m)	6, 3 0 0	0	1, 7 4 0	2 7. 6 %
事業費	工 事 費	7, 5 9 9	8 6 1	7 2. 7 %
	用地買収補償費	3, 4 0 1	1 1 0	9 8. 1 %
	計(百万円)	1 1, 0 0 0	9 7 1	8 0. 5 %
(2)関連事業の進捗状況	・圏央道境古河 IC 2015 年（平成 27 年）3 月開通 ・圏央道 4 車線化（境古河 IC～坂東 IC） 2023 年（令和 5 年）3 月開通 ・圏央道 4 車線化（五霞 IC～境古河 IC） 2026 年度（令和 8 年度）までに開通予定			
(3)今後の見通し	工 事	用 地 等		
	残る道路改良工事、橋梁工事などを進め、早期の全線開通を図る。	残る用地の早期取得に努めていく。		

5 評価内容

(1)事業の必要性	本路線が通過する境町市街地は、国道、県道、町道が輻輳し交差点が数多く存在することなどから慢性的な交通渋滞が生じている。また、圏央道境古河 IC へのアクセス機能を確保するなど、良好な道路ネットワークを形成し、地域の活性化に大きく寄与するうえでも、事業の必要性は高い。					
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況
	一般国道 354 号 交通量 (境町内)	11, 875 台/日 (H11 セサス)	10, 833 台/日 (R3 セサス)	一般国道 354 号 大型車交通量 (境町内)	2, 618 台/日 (前回評価時：R27 セサス)	3, 435 台/日 (R3 セサス)
(2)事業の有効性	本事業の実施により、下表のとおり、通過時間が約 3. 3 分短縮され、現道の交通量が約 35%の減少が期待されることから、境町市街地の渋滞緩和に効果がある。					
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり
	事業区間 (L=6. 3km) の通過時間 (R22)	13. 5 分	10. 2 分	—	—	—
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり
	事業区間 将来交通量 (R22)	—	9, 000 台/日	一般国道 354 号 現道 将来交通量 (R22)	11, 900 台/日	7, 700 台/日
(3)事業の効率性	ア) 主な効果 (B) ①本路線の整備により、境町猿山～坂東市生子間の 6. 3km 区間において走行時間の短縮（約 2 4, 0 1 2 百万円）、走行経費の縮減（約 3, 4 5 0 百万円）及び交通事故の減少（約 1 3 0 百万円）が図られる。 <u>(合計 2 7, 5 9 2 百万円)</u> ②圏央道境古河 IC へのアクセス機能の向上が図られる。 ③境町市街地をバイパスさせることにより、現道の通過交通が減少し、歩行者の安全な通行に寄与する。 イ) 主な費用 (C) ※現在価値化：令和 6 年度 ①事 業 費 1 1, 8 8 9 百万円 ②維持管理費 6 5 2 百万円 計 1 2, 5 4 1 百万円 主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C= 2. 2					
(4)地元の意向	国道 354 号整備促進協議会（会長：土浦市長、関係市町村：古河市、境町、坂東市、常総市、つくばみらい市、つくば市、かすみがうら市、行方市、鉾田市）から早期整備の要望等を受けている。					
(5)コスト削減や代替案立案の可能性	土工における土量の過不足について、近傍で実施している他事業と工事間流用を調整することにより、コスト削減を図る。					

6 対応方針

境町市街地の円滑な交通の確保及び圏央道へのアクセス機能を強化するため、事業推進を図る。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し、事業を進める。

